

- 村松幸昌委員長 皆さん、お疲れさまです。
ただいまから、総務文教常任委員会を開会いたします。
それでは、これより議案の審査を行います。
本委員会に付託されました案件は、全部で2件であります。
審査順序はお手元に配付の審査順表のとおり、総務部、市立総合病院の順で審査したいと思いますが、これに異議ありませんか。
（「異議なし」と呼ぶ者あり）
- 村松幸昌委員長 御異議なしと認めます。よって、お手元の審査順位表のとおり審査することにいたします。
最初に、総務部所管の議案の審査を行います。
議第14号「令和4年度焼津市土地取得事業会計補正予算（第1号）案」を議題といたします。
補正予算書は34ページからです。
それでは、議第14号に対する質疑に入ります。
それでは、14号に対する質疑に入りますので、質疑、意見のある委員は、御発言を願います。34ページです。
- 増井好典委員 歳出のところ、説明を聞いたときに、今回、公共用の土地の取得事業費なしだというふうにお伺いしました。ただ、なしと言っても、恐らくそれなりの候補、あるいは該当する内容、そういったものがあつたかと思えます。その辺の部分について、ちょっと御発言をいただければと思いますが。
- 大石一宏管財課長 こちらの土地取得事業特別会計につきましては、事業を実施する以前に先行取得するための予算でありまして、こちらにつきましては、本年度1件もございませんでした。
以上です。
- 増井好典委員 承知しました。
- 村松幸昌委員長 ほかにありませんか。
- 鈴木浩己委員 歳入で、財産貸付収入のやはり補正が若干あるわけでありましてけれども、今、土地取得事業会計で持っている財産というのはどの程度あつて、例年ですと、土地売払収入とかあるわけなのですけれども、土地取得事業会計で持っている土地を民間等に売却するような考え方であるだとか、あるいは、令和4年度は、土地の売却の収入は実らなかったように思うのですけれども、その辺の考え方と、あとさっき言った財産の、今、どの程度持っていらっしゃるかというのをお教えいただければと思います。
- 大石一宏管財課長 現在のこちらの土地取得事業特別会計の財産の残の状況ですけれども、後ほどお答えさせていただきたいと思えます。公売につきましては、こちらの会計が持っている不動産の公売につきましては、現在実施しておりません。
歳入の、今回、減額補正というものにつきましては、特別会計で所有している土地の貸付けにつきまして、令和3年度まで駐車場として貸していた3台分につきまして、4

年度になりまして新たに契約がなかったということで、前年度から見て3台分の駐車代金が減額したものであります。それと、利子のものにつきましては、元金約4億6,000万円の預金に対しまして、利率が、前年度のというよりも、前回よりも下がったということに伴って、今回、減額補正をさせてもらっております。

資産の残につきましては、後ほどまた調べまして、お答えさせてもらいたいと思います。

以上です。

○鈴木浩己委員 ありがとうございます。

それじゃ、もしできたら、新しい方もおいでになるものですから、資産の一覧みたいなもので、面積だとか、あとは地番だとかああいったものも含めて、もし出せるようでしたらお願いしたいと思います。

引き続きすみません。

それで、財産貸付収入の減額については、駐車場3台分の使用がなかったということで、その分の収入が減になったという御説明でした。あとは、基金の利子の部分については承知しました。では、さっきの一覧表の部分だけ、ぜひお願いしたいと思います。

○大石一宏管財課長 一覧表につきましては、可能な範囲で、後ほどまた情報提供させていただきます。

以上です。

○村松幸昌委員長 ほかにありますか。

○杉田源太郎副委員長 関連ですけど、まず、今の38ページのほうの財産貸付けのところ、駐車場3台分という説明でしたけど、この駐車場3台分というのは、場所はどこで、それで、この貸付け人というのは、3台あって3人分ということなのか。まとめて3台ということなのか。

○大石一宏管財課長 こちらの駐車場の物件につきましては、具体的には、東小川の1丁目にあるいわゆる焼津南小学校の横のほうに市が所有している土地がありまして、そちらのほうの物件となります。

3台分につきましては、3名ということであります。

以上であります。

○杉田源太郎副委員長 了解です。

もう一件、いいですか。あと、先ほどの土地取得事業のほうで、今回、用地の取得はなかったということで、4億6,000万円ですか、これが減額されるというのは、以前に同じ金額を予算計上したけど、なかったもので全部返すというそういうことでよろしいですか。

○大石一宏管財課長 ただいま副委員長から御説明のとおり、そういったことでございます。

○杉田源太郎副委員長 了解です。

○村松幸昌委員長 ほかにありませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○村松幸昌委員長 ほかにないようですので、質疑、意見を打ち切ります。

討論はありませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○村松幸昌委員長 討論を打ち切ります。

これより採決いたします。

議第14号は、これを原案のとおり可決することに賛成の委員の挙手を求めます。

(賛成者挙手)

○村松幸昌委員長 挙手総員であります。よって、議第14号は、これを原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

以上で、総務部所管の議案の審査は終わりました。

当局の皆さん、御苦労さまでした。

ここで、当局の入替えがありますので、しばらくお待ちください。

それでは、次に、市立総合病院所管の議案の審査を行います。

議第18号「令和4年度焼津市病院事業会計補正予算(第3号)案」を議題といたします。

補正予算書は58ページからです。

それでは、議第18号に対する質疑に入ります。

御意見、質疑ある委員は御発言願います。

○増井好典委員 58ページのところで、最初に、補正の予定量といったものが変更されているということで、この補正料の変更に関して、それなりの根拠があったと思うのですね。その根拠の中に、要は、新型コロナウイルス感染症の部分が一部根拠の1つの理由として入っているかどうかといったことをちょっと教えていただきたいと思います。

○鈴木大紀事務部次長 まず、この業務の予定量で、年間延べ患者数を4,800人増やして23万8,000人としております。まず、こちらの根拠でございますけれども、延べ患者数、1月末、先月の1月末時点で10か月経過したところで、外来の延べ患者数は19万9,076人でございます。

1月の延べ患者数が、外来が1か月の単月、1万8,611人でした。そうしますと、決算、3月31日の着地まで残り2か月でございますが、大体推移として、1万8,000人、八千数百人は、2月、3月もいらしてくださるだろうと、予約の状況ですとか、そういうものを含めると、こちらの23万8,000人は大体クリアできるだろうという根拠の下に見立てました。それで、それは1日平均の患者数に換算いたしますと、20人の増加、1日平均外来の延べ患者数が980人、病院にいらしていただけるだろうと見込んで、この業務の予定量を定めました。

以上でございます。

○寺田浩己事務部長 新型コロナウイルス感染症の患者の、影響しているかというところで、ちょっとお答えさせていただきますと、外来のほうで、新型コロナウイルス感染症の患者さんを診察しております。第8波のときに、焼津市も患者さんが増えて、当院のほうにも見えております。その関係で患者数が増えているというような状況にはなっております。

以上です。

○増井好典委員 そうしますと、概算、今までの動向を見て、ある程度数字的なものは積み上げてきたというところで、ある意味で、方法論としたらそれしかないのかなという

気はするにはするんですけれども、ただ、今、また新型コロナウイルス感染症の関係と
いったものがどういうふうに作用することがちょっと分からないので、その辺の危惧は
ちょっとあるんですけど、減るというよりも、どちらかというが増える、外来の患者さ
んが増える可能性のほうが、高いには高いと思うんですけど、そういった場合に、例え
ば、当然、人数が増えれば、それなりの金額のほうも、相当量上がってくるといったこ
とになると思います。現状は新型コロナウイルス感染症の関係で、例えば大きな手術は
できなかったとか、そういったこともあったのではないかなというふうなことも推察さ
れるんですけども、今後はそういったことも、多少含みという形で考えてもよろしい
んでしょうか。これからできるよと、そういったコロナ禍でもありながら、今まででき
なかつた治療をどんどんやっていきますよといった内容でいいのかなというふうに思う
のですが、その辺はどうでしょう。

- 寺田浩己事務部長 新型コロナウイルス感染症の患者さんを見ている最中でも、入院の
手術とかその辺はできる範囲でやっておりました。ですので、今回、上げさせてもらっ
たのは、外来の患者ということで、ほとんど、今もう外来のほうに、新型コロナウイルス
感染症の患者さん、もう大体、入院する患者さんというのはほんのごく一部で、基礎
疾患を持っているような高齢の方とかが主になっていまして、ほとんどがもうワクチン
を打ったりとかしているものですから、外来で治療ができていたというような状況にな
っておりますので、ほとんどもう外来で治療という形になっています。先ほど申したと
おり入院治療につきましては、引き続きというか、ずっと継続してやっておりましたの
で、ただ、新型コロナウイルス感染症にかかった患者さんを手術、止めなきゃならない
というのはもちろんあったんですが、それ以外の患者さんにつきましては注意しながら
継続してやっていたと、手術もやっていたというような状況です。

以上です。

- 増井好典委員 了解しました。
- 村松幸昌委員長 ほかにありますか。
- 鈴木浩己委員 その外来の患者数ですとか伺ったんですけども、64ページの外来収益
の中で、1日平均診療収入ということで1万7,400円があるわけですけども、こちら
は、別に変更なく、令和4年度というのはいっているんですか、それ1点、お願いします。
- 鈴木大紀事務部次長 まず1受診料単価でございますが、前回の11月補正の1万7,300
円から100円アップいたしまして1万7,400円といたしました。その点につきましては、
やはり、先月、1月末、10か月経過の1月末において、外来の1日平均診療収入が、1
万7,266円でした。残り2か月、目標という意味も病院としてございますが、1万7,400
円といたしました。

私、先ほど11月補正のとき1万7,300円と申しあげました。当初では、当初の昨年の
この委員会で、1万7,200円で上程して当初予算といたしました。ですから、この年間
で都合200円アップさせていただきました。

以上でございます。

- 鈴木浩己委員 ありがとうございます。

外来は分かったんですが、入院の年間患者数とか、1日入院患者数とか、あるいは単
価、こちらのほうはどうです、変化ありましたか。

○寺田浩己事務部長 今回の補正のほうでは、あえて上げてはいないんですが、実際に増えているか、減っているかというところにおきましては、入院の患者数は減っております。これは、受診控えというのはないのでしょうが、一応、患者数としましては、今、減っているというような状況になっています。大体、1月末現在で、去年の同月と比較しまして、5,000人ほど減っておるような状態です。ただ、単価自体は伸びていますので、通常のところ6万円で当初予算はしましたが、今、6万4,000円、6万5,000円ぐらいまで伸びております。ただ、伸びているんですけど、5,000人減っていますので、今、決算ではどうなるかというような見込みではありますけど、やはりちょっと前年度よりもマイナスになるような見込みでおります。

以上です。

○鈴木浩己委員 分かりました。

あれですか、病床占有率の推移はいかがでしょうか。

○寺田浩己事務部長 占有率も、病床利用率、稼働率と言いますが、大体、70%を超えるか、超えないかぐらいで、今、推移しております。ただ、これにおきましては、ちょっと病棟を、今、新型コロナウイルス感染症の専用病棟として利用しておりますので、その病棟はぐっと下がるものですから、押し下げる理由にはなっておりますが、申し上げたとおり70%台を推移したような病棟の稼働率ということになっております。

以上です。

○鈴木浩己委員 ありがとうございます。

それと、あと64ページ、医業外収益の中の補助交付金で、県費補助金が4億5,600万円入り込んで増額補正ということなのですが、全国的に見て、今回、特に自治体というか公立病院の場合は、こういった新型コロナウイルス感染症特需とかというちょっと皮肉ったような報道があつて、相当多額の補助金が入ることによって、全体の収益というか、それがプラスに転じているようなそんな報道があつたわけなのですが、焼津市立総合病院の場合、今回は4億5,600万円程度なのですが、これはあれですか、国ですとか、県からもこれだけ入って、今のところ総額でどの程度で、経営に影響を及ぼす、どの程度影響を及ぼしたのかという、その辺もちょっと御説明いただければと思います。

○鈴木大紀事務部次長 まず、順を追いますと、昨年、4億6,600万円の黒字でございました。そのうち補助金で、令和3年度ですけれども、新型コロナウイルス感染症補助金で11億3,000万円ほどの補助金を頂いたことは事実でございます。まず、今年度でございますが、この補正予算で4億5,686万7,000円増やして、補助交付金が7億8,589万2,000円となります。これに交付が確実にされた分だけ、まずは、今の時点では計上しておりますが、最終的にはやはり昨年と同じように、設備事業ですとか、いろんな種類の補助金があります。11億円を超える着地になると見立てております。既に、申請も3月末までに今年度の分ということで、既に全部申請を終えている段階でございます。

以上です。

○鈴木浩己委員 分かりました。ありがとうございます。

では、例えば5月8日に今度は5類になるわけですね。そうなった場合に、こういった交付金については全くなくなるのか、今後の国会審議によって左右されますけれど

も、なくなっちゃうのか、それとも一部だけになるのかというそういう情報とか入っていますか。

○寺田浩己事務部長 我々もまだ新聞報道レベルでしかないんですが、来年度にかけて段階的に減らしていくよというような形では理解しております。ですので、全くなくなってしまうかという、多分一部は残るんだと思うのですが、ただ今年度、昨年度並みに、補助金とか、助成金があるかという、それはなくなっていくんだと思います。段階的になくして行って、多分令和5年度中にはもうゼロにして令和6年度を迎えるというような形になるのかなという、推測でしかありませんけど、そのような形で、今、考えております。

○鈴木浩己委員 となると、やっぱり経営努力というか、それをまたきっちりやっていた中で、この補助金がないとどうしてもやっぱり累積も増えていくような傾向だものですからね。ですので、新病院のそういった予定もあるわけですので、ある意味では、今のうちに、とにかくそういう経営努力でもって累積を少しでも減らすという、そういうまた努力をぜひお願いしたいと思います。

以上です。

○村松幸昌委員長 ほかにありますか。いいですか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○村松幸昌委員長 それでは、ほかにないようですので、質疑、意見を打ち切ります。討論はありませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○村松幸昌委員長 討論を打ち切ります。

これより採決いたします。

議第18号は、これを原案のとおり可決することに賛成の委員の挙手を求めます。

(賛成者挙手)

○村松幸昌委員長 挙手総員であります。よって、議第18号は、これを原案のとおり可決すべきものと決定しました。

以上で、市立総合病院所管の議案の審査は終わりました。当局の皆さん、御苦労さまでした。

これを持ちまして、総務文教常任委員会を閉会いたします。

皆さん、大変御苦労さまでした。

閉会 (11:04)